

平成 27 年度
自己評価報告書

平成 28 年 12 月 6 日
自己評価委員会

1. 教育理念・目的・育成人材像

評価項目	評定
1-1-1 理念・目的・育成人材像は、定められているか	4
1-1-2 育成人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	4
1-1-3 理念等の達成に向け特色ある教育活動に取り組んでいるか	4
1-1-4 社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	4

- ・本校の教育理念、建学の精神、またそれを踏まえた育成人材像は明確に定められており、学校 HP や入学案内パンフレットを通して、学生・保護者等に周知されている。
- ・本校の育成人材像は、教育理念、建学の精神を核としつつ、学生の卒業後の就業先である美容業界が求める人材ニーズにも適合していると認識している。就職先のサロンからも本校の学生については毎年、一定の評価を得ている。
- ・教育理念、建学の精神に基づいた本校らしい特色ある教育活動に取り組んでいる。美容師国家資格の取得だけに留まらない将来を見据えた幅広い美容教育、美容業界の発展に寄与する人材育成に取り組んでいる。
- ・社会のニーズ、美容業界のニーズを踏まえた中期的な将来構想を抱いている。本校の学校事業の取り組み方針や新事業に関しては各会議体を活用して教職員への共有化が図られている。

2. 学校運営

評価項目	評定
2-2-1 理念等に沿った運営方針を定めているか	4
2-3-1 理念等を達成するための事業計画を定めているか	3
2-4-1 設置法人は組織運営を適切に行っているか	4
2-4-2 学校運営のための組織を整備しているか	3
2-5-1 人事・給与に関する制度を整備しているか	3
2-6-1 意思決定システムを整備しているか	3
2-7-1 情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っているか	3

- ・教育理念等に沿った学校運営方針は独自の運営指針として取りまとめており、毎年、教職員間で内容を再確認し、徹底を図っている。
- ・本校の教育理念、建学の精神をもとに「事業計画」を定めており、取り組み内容に応じて予算を配分している。また、事業やプロジェクトごとの執行・進捗状況についても各会議体にて把握され、必要に応じて適宜見直しを行っている。
- ・理事会、評議員会は適切に開催されており、学校運営に関わる重要な事項については、理事会の承認を得て実行している。毎回議事録を作成し、事務局にて保管している。
- ・学校運営のための組織は機能的に編成されている。各部署の役割分担が明確になされており、組織運営のための規則・規程類の整備も行われている。
- ・平成 27 年度に人事制度の改定を行い、新人事制度に基づき、「就業規則」等の改定を行った。来年度以降、新制度に基づいて適切に運用を行っていく。
- ・意思決定システムは整備されおり、意思決定の権限等は明確になっている。また、各会議体も機能的に運営されている。
- ・情報システム化に取り組み、業務の効率化を図っている。学籍管理システムを活用することで、学生の学費納入状況の問い合わせ等の対応や広報に役立てている。

3. 教育活動

評価項目	評定
3-8-1 理念等に沿った教育課程の編成方針、実施方針を定めているか	4
3-8-2 学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明確にしているか	4
3-9-1 教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	4
3-9-2 教育課程について外部の意見を反映しているか	3
3-9-3 キャリア教育を実施しているか	3
3-9-4 授業評価を実施しているか	3
3-10-1 成績評価・修了認定基準を明確化し、適切に運用しているか	4
3-10-2 作品及び技術等の発表における成果を把握しているか	3
3-11-1 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけているか	4
3-11-2 資格・免許取得の指導体制はあるか	4
3-12-1 資格・要件を備えた教員を確保しているか	4
3-12-2 教員の資質向上への取組みを行っているか	4
3-12-3 教員の組織体制を整備しているか	4

- ・カリキュラム編成方針は運営マニュアルにて定めている。
- ・本校では、学科毎に修業年限に応じた教育到達レベルを明示している。学内において技術毎に認定試験の合格基準を明確に設けている他、専門課程専門科、通信課程通信科においては「美容師国家資格」取得が、専門課程総合美容科においては「国際ライセンス」の取得が教育到達レベルの一つとなっている。
- ・本校では、教育理念、建学の精神を核として、美容業界で求められる人材像を踏まえた上で、マニュアルに定められているカリキュラム編成体制、検討スケジュールに基づいて教育課程を編成している。カリキュラム編成にあたっては、美容師法にて定められている必修科目ごとの時間数を満たすように設定し、選択必修科目においても適切に授業時間を配分している。また、修了に関わる授業時間数は「学則」にて定めている。
- ・コンテストの審査員を美容業界の方に依頼して講評をいただくなど、外部からの意見及び評価は積極的に収集し、教員間で共有している。就職先のサロンからの本校卒業生に対する意見及び評価は就職担当の教員が収集し、教員間で共有化している。これらの意見も踏まえながら、教育課程を編成している。
- ・キャリア教育の一環として、様々なコースを設定。
美容師国家資格を取得している方、既に業界で働いている方から求められる美容スキルが習得できるような教育の場を設けている。
- ・各学科ともに1年間の修了時には学生からヒアリングを行い情報収集している。その中からカリキュラムや授業内容に対する意見を収集することが出来ている。また、課外授業など希望者のみが受講するコースについても同様にヒアリングを行っている。

- 成績評価の基準については学則等に明確に規定している。
学科試験の採点について不明確な点が生じた場合は教員間で情報を共有し、基準を統一している。
また、実技試験の認定試験の採点については複数の教員が採点するなどの仕組みを取り、客観性・統一性の確保に取り組んでいる。
- 作品及び技術等の発表における成果は把握している。例えば、コンテスト参加の受賞状況については写真とともに記録に残しており、その一部は本校 HP や同窓会機関紙にて情報を公開している。
- 目標とする資格・免許は、教育課程上で、明確に位置づけており、専門科、通信科においては「美容師国家資格」、総合美容科においては「国際ライセンス」の100%合格を目指している。
- 「美容師国家資格」及び「国際ライセンス」の取得については万全の指導体制を整えている。その他、各種美容関連の検定試験においても取得に向けての指導体制を整備している。
美容師国家試験の不合格者については、卒業後も受験科が受験対策講座を開催しており、手厚いサポート体制を整備している。
- 本校の提供するカリキュラム・授業運営に適した能力・資質を持つ教員を十分に確保している。
- 本校では、教員の資質向上に向け、毎年研修計画をたて適切に運用している。また、コンテストへの参加や資格取得などは年間を通して推奨しておりキャリア開発を支援している。
- 本校では、学科、部門別に適切な組織体制が整備されており、担当教員間での連携・協力体制はしっかりと構築されている。

4. 学修成果

評価項目	評定
4-13-1 就職率の向上が図られているか	4
4-14-1 資格・免許取得率の向上が図られているか	4
4-15-1 卒業生の社会的評価を把握しているか	3

- ・就職サポートは学生の主体性を大切に学生一人ひとりのニーズを的確に捉えた上で、クラス担任と進路相談室の就職担当者のダブル体制により行っている。クラス担任より、就職活動における心構えや活動方法等を「就職ガイダンス」にて伝えるとともに、サロンと連携して校内で「就職説明会」も開催している。
- ・美容師国家資格の取得は100%を目標とし、通常の授業に加えて、受験対策講座を開講している。合格実績、合格率については受験科にて全国水準及び都内の美容専門学校との比較を行っており、より高い合格率を目指して、毎年、指導方法のレベルアップに取り組んでいる。
- ・卒業生の社会的評価は、就職先のサロンや母校を訪問する卒業生からの近況報告による情報が主な情報源となっている。

5. 学生支援

評価項目	評定
5-16-1 就職等進路に関する支援組織体制を整備しているか	4
5-17-1 退学率の低減が図られているか	3
5-18-1 学生相談に関する体制を整備しているか	4
5-18-2 留学生に対する相談体制を整備しているか	2
5-19-1 学生の経済的側面に対する支援体制を整備しているか	4
5-19-2 学生の健康管理を行う体制を整備しているか	4
5-19-3 学生寮の設置など生活環境支援体制を整備しているか	4
5-19-4 課外活動に対する支援体制を整備しているか	3
5-20-1 保護者との連携体制を構築しているか	4
5-21-1 卒業生への支援体制を整備しているか	4
5-21-2 産学連携による卒業後の再教育プログラムの開発・実施に取り組んでいるか	3
5-21-3 社会人のニーズを踏まえた教育環境を整備しているか	3

- ・進路相談室を中心に就職支援のための組織体制は整備されている。求人情報は学生たちがいつでも閲覧できるようになっており、学生の就職相談にはクラス担任と就職担当がダブル体制でサポートしている。また、サロンの方を校内に招いた「就職説明会」を実施している。
- ・退学率の低減に向けてきめ細やかなフォローを行っている。退学を悩んでいる学生との面談はクラス担任の他、組織的に教務全体で連携体制を取っている。
- ・学生相談に関する体制は手厚く整備されている。日々の指導にあたるクラス担任、就職担当教員等、内容に応じて本校の様々な教員が学生相談に応じることができる体制となっている。
- ・留学生に関しては、入学前は事務局の担当部署が対応、入学後は他の学生と同様にクラス担任が相談等に応じている。
- ・学生の経済的側面に対する支援としては、学生支援機構の奨学金や民間金融機関の学資ローン借入の窓口を行っている。
- ・本校では学生の健康診断やインフルエンザの予防接種等を実施している。健康に関しては学内の衛生管理者を中心に、必要に応じて学生全体への啓発活動、教育を行っている。
- ・本校では、学校指定の学生寮として開成学生会館と連携している。学生寮には寮長、寮母が常駐し、朝夕2食栄養バランスの良い食事を提供するなど、学生が学業に専念できる環境が整っている。
- ・美容技術を学ぶ課外授業を設置している。また、学校代表として学生が外部のコンテストに参加する場合の指導・支援体制は充実しており、技術指導はもちろんのこと、コンテストへの引率等の支援も行っている。

- ・保護者に対しては、入学後及び進級後に「年間行事予定」のお知らせを送付し、学校の行事等についての情報提供を行っている。加えて、個別の学校行事についても見学のご案内を行っている。
- ・同窓会を組織しており、学校を活動拠点としている。主な活動内容としては年に数回、同窓会機関紙を発行し情報提供を行っている。
- ・本校には、「日本ヘアデザイン協会（NHDK）」や「NB ユーгент」に所属している教職員がおり、関連業界と連携・協力しながら美容業界の発展に寄与する様々な活動を行っている。
平成 27 年度においては卒業後の再教育プログラムへの具体的な取り組みはなかったものの、過年度においては卒業後のカット講習なども行った。
- ・社会人経験者の方についても教育環境は他の学生と共通である。
本校では専門課程夜間部については「教育訓練給付金制度」が活用できるように申請を行い、間接的に就学支援を行っている。

6. 教育環境

評価項目	評定
6-22-1 教育上の必要性に十分対応した施設・設備・教育用具等を整備しているか	4
6-23-1 学外実習、インターンシップ、海外研修等の実施体制を整備しているか	4
6-24-1 防災に対する組織体制を整備し、適切に運用しているか	4
6-24-2 学内における安全管理体制を整備し、適切に運用しているか	4

・美容教育の必要性に十分対応した施設・設備・機器類等を整備している。また、学生が休憩・食事を取るためのスペースとして学生ホールなども設置している。

・本校では、年間を通して様々な校外実習・海外研修を行っている。各々、実施要項・マニュアルが整備されており、担当者を中心に適切に運用している。

・防災に対する組織体制は整備され、適切に運用されている。毎年、教職員・学生対象の防災訓練を行い、事務局には防火・防災管理者の資格を保有している者を配置している他、各教室にも「火元責任者」を配置している。また、災害時にどのような対応を取れば良いのかが分かる「マニュアル」も整備されている。

・安全対策については年間計画に基づいて取り組んでいる。授業時間中は校舎の入り口に警備員を配置させ、閉館後は全館セキュリティをかけて、防犯体制を整備し、適切に運用している。また、授業中に発生した事故等に関する対応は、適切に対応できる体制が整備されている。

7. 学生の募集と受け入れ

評価項目	評定
7-25-1 高等学校等接続する教育機関に対する情報提供に取り組んでいるか	4
7-25-2 学生募集を適切、かつ、効果的に行っているか	4
7-26-1 入学選考基準を明確化し、適切に運用しているか	4
7-26-2 入学選考に関する実績を把握し、授業改善等に活用しているか	4
7-27-1 経費内容に対応し、学納金を算定しているか	4
7-27-2 入学辞退者に対し、授業料等について、適正な取扱を行っているか	4

- ・ 高等学校等で開催される進学ガイダンス、説明会に積極的に参加することで、本校の教育方針やカリキュラム等の情報提供を行っている。また、高等学校の教職員に対する説明会にも毎年参加し、本校への理解を深めていただいている。
- ・ 推薦入試の受付、一般入試の受付は進路検討を行う学生にとって、いずれも適切な時期に受付を開始している。
体験入学は土日を中心に年間通して行っている。オリエンテーションは平日、昼間部、夜間部、通信科を授業見学ができるようにしている。随時個別相談会も開催している。
各イベントの実施内容は各学科の特徴、魅力を伝えられるように毎年、工夫している。
- ・ 入学選考基準・方法については文書化し、毎年入試前には選考基準等について確認し共有することで適切に運用している。各学科の合否判定は「合否判定会議」によって決定する。
- ・ 入学選考に関する実績は学科毎の合格率・入学辞退率のデータを適切に管理している。
また入学選考時に知り得た入学者の傾向、情報は広報課にて把握し、各期及び受験科の教員が連携してクラス運営や指導方法に活用している。
- ・ 学納金は、美容教育を行う上で必要となる教育関連の経費、施設管理費等を賄い、且つより良い学習環境を整えるための将来の投資金額を加味して設定している。学納金の見直しの検討はカリキュラムの変更や教材費の変更、消費税の値上げなど事業環境の変化に対応して行っている。
- ・ 入学辞退者に対しては、授業料等の納入金を返還している。募集要項にも明示し、適切に取り扱っている。

8. 財務

評価項目	評定
8-28-1 学校及び法人運営の中長期的な財務基盤は安定しているか	3
8-28-2 学校及び法人運営に係る主要な財務数値に関する財務分析を行っているか	3
8-29-1 教育目標との整合性を図り、単年度予算、中期計画を策定しているか	4
8-29-2 予算及び計画に基づき、適正に執行管理を行っているか	4
8-30-1 私立学校法及び寄附行為に基づき、適切に監査を実施しているか	4
8-31-1 私立学校法に基づく財務情報公開体制を整備し、適切に運用しているか	2

- ・ 専門科昼間部が定員数を確保していることにより財務状況は概ね安定している。
- ・ 経営指標等を活用した財務分析は必要に応じて行っている。
- ・ 予算は事業計画との整合性を図って編成しており、単年度予算、中期計画を策定している。
- ・ 予算の執行状況は把握しており、予算超過が見込まれる場合には補正予算を組んでいる。
- ・ 本校では監査法人による財務監査を実施しており、監査報告書は理事会等で報告している。
- ・ 公開が義務づけられている財務帳票、事業報告書は作成しているが、これまでに財務公開要請はなく、公開の実績自体がない。本校としては、外部より申請があった場合には、財務情報を公開する方針である。

9. 法令等の遵守

評価項目	評価
9-32-1 法令や専修学校設置基準等を遵守し、適正な学校運営を行っているか	4
9-33-1 学校が保有する個人情報保護に関する対策を実施しているか	3
9-34-1 自己評価の実施体制を整備し、評価を行っているか	3
9-34-2 自己評価結果を公表しているか	2
9-34-3 学校関係者評価の実施体制を整備し評価を行っているか	2
9-34-4 学校関係者評価結果を公表しているか	1
9-35-1 教育情報に関する情報公開を積極的に行っているか	3

- ・関係法令及び設置基準等に基づき、学校運営を行っている。所轄官庁への諸届出は事務局担当者が適切に対応している。
- ・個人情報管理については、常に意識づけを行っている。個人情報を適切に取り扱うことについての教職員に意識は高く、適切に運用されている。
- ・「自己評価報告書」としての取りまとめは行っていなかったが、学校運営に対する過年度の評価、課題の整理や今後の取組みについての議論は行われ、常に改善に取り組んでいる。
- ・学校の活動内容については、公式 HP や同窓会紙などを活用して外部へ積極的に公表している。平成 27 年度分の「自己評価報告書」については、委員会を発足した上で、平成 28 年度中に作成するものとした。
- ・平成 27 年度は学校関係者評価は実施していないが、平成 28 年度より実施体制を整備し学校関係者評価を行う。
- ・平成 27 年度は「学校関係者評価報告書」は取りまとめておらず、外部への公表も行っていない。
- ・学校の特色、建学の理念、カリキュラムの内容などは「学校案内」及び公式HP等を通じて積極的に情報を公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

評価項目	評定
10-36-1 学校の教育資源を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
10-36-2 国際交流に取り組んでいるか	3
10-37-1 学生のボランティア活動を奨励し、具体的な活動支援を行っているか	3

- ・毎年、地域の方を招待して美容の施術を行うイベントを開催し、美容に関する知識・テクニックを教授している。
- ・本校では、設立の早い時期から諸外国の美容技術・文化の紹介に努めると同時に、国外で様々な研修・指導セミナーを行ってきた。その他、アジア各国の美容師のために短期研修も開催しており、平成27年度はタイより20名ほどの美容師が本校を訪れ、美容セミナーを開催した。国際的な美容団体が主催する競技大会にはここ数年毎年参加し、その機会にHAIR SHOWを開催するなど、国際交流には積極的に取り組んでいる。
- ・ボランティア活動など社会活動に学生が自主的に参加することを認めている。本校のカリキュラムにおいてもボランティアや奉仕の精神を育み、ご年配者にメイクやネイルの施術を行う機会も設ける等、美容がもたらす精神的なケアについても学んでいる。

平成 27 年度

学校関係者評価報告書

平成 28 年 12 月 6 日

学校関係者評価委員会

1. 教育理念・目的・育成人材像

- ・日本美容専門学校の教育理念・育成人材像は明確になっており、学校パンフレットをはじめとした資料にわかりやすく明示されている。学校の目指す方向性がはっきりと示されている点は非常に良い。
- ・日本美容専門学校の教育方針や人材育成像は、カリキュラム編成にもしっかりと反映されていると認識した。
- ・独自の教育理念、人材育成像がしっかりと確立されており、その点は評価している。日本美容専門学校の魅力を保ちつつ、常に進化し続ける学校であってほしい。

2. 学校運営

- ・18歳人口の減少などに伴い、今後美容専門学校を取り巻く市場環境はさらに厳しくなると想定される。そういった中で、数年先を見据えた「事業計画」を策定することは、学校運営の基盤をさらに強固にするものと思われる。ぜひ取り組んでいてもらいたい。
- ・学校運営に関わる組織体制はしっかりと整備されている。
- ・平成27年度は人事制度の改定に取り組みされたとのことで、来年度以降、改定の狙い・目的を達成すべく運用していくことが重要である。
- ・学校内における制度やシステム整備のみならず、教員、職員、サロンオーナー、保護者、地域の方々、理事間の積極的かつ活気あるパートナーシップは教育サービスが依拠する基盤であると感じる。そうした方々の協力を得ながら、更により良い学校運営に努めてもらいたい。

3. 教育活動

- ・ 学生、教職員ともに明るく、学校の雰囲気が良いことは日本美容専門学校の特長であり、魅力である。これは教職員と学生の距離が近いことにも由来すると思われる。また、しばしば“日美らしさ”として表現される魅力の本質は、“積み重ねていた文化の魅力”と捉えられるのではないかと感じた。「日本美容専門学校」の魅力、固有性を今後も大切にしていってほしい。
- ・ 専門課程専門科、通信課程通信科の美容師国家資格の合格率の高さ、総合美容科の国際ライセンス 100%の合格率は、カリキュラムの良さや教員の指導力の高さに起因している。高い国家資格、国際ライセンスの取得率を維持しつつ、卒業後の手厚い受験サポートもぜひ継続してほしい。
- ・ 日本美容専門学校の教員の質の高さについては、学生のコンテストでの活躍等にも結果として現れている。実際に授業風景を見学させてもらったが、授業の進行の仕方、教え方が非常に分かりやすく、学生一人ひとりの理解度、習熟度に合わせたきめ細やかな指導には感心した。
- ・ 学生に対する教育はもちろんのこと、それを支える教員の資質向上に力を入れ、キャリア開発支援、教職員研修に常に取り組んでいる点も評価に値する。今後もより良い教育の実現に向けて、さらなるレベルアップに取り組んでほしい。

4. 学修成果

- ・ 就職率の高さは専門学校の重要な指標である。就職指導は現状も力を入れていると思うが、一人でも多くの学生が希望のサロンへと就職できるように学校としては常に体制強化を試みるべきである。
- ・ 採用試験の際には、学生自身が将来像をしっかりと描けているかが重要なポイントである。面接指導においてはそのことを踏まえて現状以上にフォロー体制を整備していくことが望まれる。
- ・ 一方で、日本美容専門学校の学生のデザイン力の高い学生が多いことは、高く評価している。良い点を維持しつつ、改善点に取り組んでいただきたい。

5. 学生支援

- ・日本美容専門学校对学生に対するバックアップ体制は総じてしっかり整っている。美容師国家試験対策をはじめ、様々なフォローが高いレベルでできている点は素晴らしい。
- ・学費の経済的サポートでは、学生に向けて日本学生支援機構の奨学金制度、民間の学費ローンのお知らせをしっかりと行っている。
- ・学生健康管理に対する体制も組織的にきめ細やかな対策がなされている。
- ・今後学生の層は多様化する傾向にあると思われる。様々な学生支援の仕組みづくりに精力していただきたい。

6. 教育環境

- ・学生が様々な美容知識・技術を学んでいくにあたり、十分な設備・施設が整っている。
- ・施設全体が明るく、雰囲気も良い。本館エントランスの壁画や各館に飾られている絵画など、随所に日本美容専門学校らしさを感じる施設である。
- ・また、美容関連の書籍は充実しており、学生が休憩・交流等に自由に利用できる学生ホールなど、学校の設備・教育環境は十分に整備されている。
- ・防災訓練も毎年実施しており、十分な対策がなされている。今後も、より良い防災・安全管理体制を目指して取り組んでいてもらいたい。
- ・現行の教育環境に問題はないが、美容業界は今以上に幅広いニーズに対応する時代が到来する。学校としても、より幅広い可能性に対応できる体制でいてほしい。

7. 学生の募集と受け入れ

- 学校パンフレットや HP での情報提供の他、年間を通して体験入学などを数多く開催し、日本美容専門学校の特徴をしっかりと進学希望者に伝えている。
- 入試方法や時期、出願条件については、「募集要項」に記載され、入学希望者に周知されている。また、選考基準については入試前に再確認する会議を設けるなど、公平・適切に運用されている。
- 市場環境が厳しくなる中において、将来的に学納金の見直しが必要となることがあるかもしれない。事業継続のための適正な学納金の算定方法について、現状を踏まえた上であらかじめ検討しておくことが望ましい。

8. 財務

- 財務基盤については、現行は特に問題はないと認識している。
- ただし、学生数の確保は課題であり、これまで同様に充実した教育を行うことで学校としての魅力を上げ、学生募集に注力していくことが求められる。
- 外部の監査法人による財務監査も実施されている体制は大変良い。
- 財務情報の公開については、申請があった場合に公表する方針だが実績はない。「財務公開規程」の整備をはじめとした情報公開体制の整備が望まれる。
- 財務基盤の安定に引き続き取り組んでいってほしい。

9. 法令等の遵守

- ・関係法令、設置基準に基づいて学校運営が行われており、教職員にコンプライアンス及び守るべきルールを周知徹底できている。今後も継続して行ってほしい。
- ・学生の個人情報を適切に取り扱うことについては校内で十分に教育されている。
- ・自己評価の公表、学校関係者評価の実施・公表については、「平成 27 年度自己評価報告書」に記載があるとおおり、平成 28 年度より組織体制・規程類を整備して取り組んでいる。今後、取り組み内容が公表されていくことが望まれる。

10. 社会貢献・地域貢献

- ・地域の方と交流できるイベントを毎年行っていることは良いことだと思う。今後も継続して行ってほしい。
- ・また、国際交流も盛んであり、教員は諸外国の美容技術・文化の紹介を行うと同時に国外で様々な研修・指導セミナーを実施している。教員が技術向上のため海外で行われるコンテストにも積極的に参加している点はとても良いと思われる。
- ・日本美容専門学校はグローバルな活動を積極的に行っている美容専門学校だと認識している。学校としてグローバルな活動は今後も維持して行ってほしい。
- ・社会貢献・地域貢献は表に出すものではないという考えもあるが、学校の姿勢を理解してもらうためのとても良い方策であると思う。しっかり PR すべきである。

【貸借対照表】

平成 27 年 4 月 1 日から
平成 28 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	本年度末	科目	本年度末
固定資産	2,816,500,585	固定負債	1,195,466,590
有形固定資産	1,709,104,087	流動負債	1,315,085,049
その他の固定資産	1,107,396,498	負債の部合計	2,510,551,639
		基本金の部	
		科目	本年度末
流動負債	1,517,641,026	第 1 号基本金	2,197,428,340
		基本金の部合計	2,197,428,340
		消費収支差額の部	
		科目	本年度末
		翌年度繰越消費収入超過額	△373,838,368
		消費収支差額の部合計	△373,838,368
		科目	本年度末
資産の部 合計	4,334,141,611	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	4,334,141,611

【消費収支計算書】

平成 27 年 4 月 1 日から
平成 28 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収入の部		支出の部	
科目	決算	科目	決算
学生生徒等納付金	1,295,483,864	人件費支出	622,024,471
手数料	13,922,250	教育研究経費	601,530,339
補助金	4,489,668	管理経費	223,106,292
事業収入	134,616,866	その他の支出	20,785,503
雑収入	68,227,555		
帰属収入 合計	1,516,740,203	消費支出の部合計	1,467,446,605
基本金組入額合計	△37,478,497	当年度消費収入超過額	11,815,101
		前年度繰越消費収入超過額	△385,653,469
		翌年度繰越消費収入超過額	△373,838,368
消費収入の部合計	1,479,261,706		

【資金収支計算書】

平成 27 年 4 月 1 日から
平成 28 年 3 月 31 日まで

(単位：円)

収入の部	
科目	決算
学生生徒等納付金収入	1,295,483,864
手数料収入	13,922,250
補助金収入	4,489,668
事業収入	134,616,866
雑収入	43,025,609
前受金収入	728,185,955
その他の収入	452,787,339
資金収入調整勘定	△793,699,691
前年度繰越支払資金	875,992,475
収入の部 合計	2,754,804,335

支出の部	
科目	決算
人件費支出	600,302,113
教育研究経費支出	540,421,934
管理経費支出	208,266,364
施設及び設備関係支出	93,049,539
その他の支出	92,768,353
資金支出調整勘定	△189,825,796
次年度繰越支払資金	1,409,821,828
支出の部 合計	2,754,804,335